

# 浅口市 平成30年度 全国学力・学習状況調査の概要

平成30年9月

浅口市教育委員会学校教育課

## 【調査概要】

○浅口市内7小学校6年生児童277人、3中学校3年生生徒261人参加（H30/4/17実施）

## 【学力調査の結果概要】

○平均正答率

資料 A

		国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	理科
小学校	浅口市	72.0	55.0	64.0	51.0	61
	岡山県	71.0	54.0	62.0	50.0	60
	全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
中学校	浅口市	74.0	57.0	63.0	43.0	63
	岡山県	76.0	59.0	65.0	44.0	66
	全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

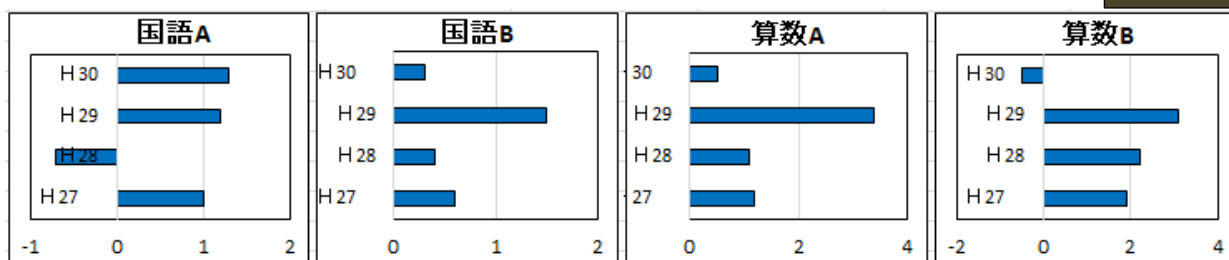
- 今年度の浅口市の平均正答率は、小学校では算数Bは全国を下回ったが、その他の科目では上回っており、昨年度同様、基礎・基本の徹底や授業改善の成果が現れている。理科においても、全国平均を上回り、基本的な学力は身に付いていると言える。中学校では、全ての教科で全国・県平均を下回り、基礎学力の定着に向けた早急かつ長期的な改善策が望まれる。

⇒ 学力全体を包括した授業改善や家庭学習の定着などに、地道に、継続的に取り組む必要があると考えられる。

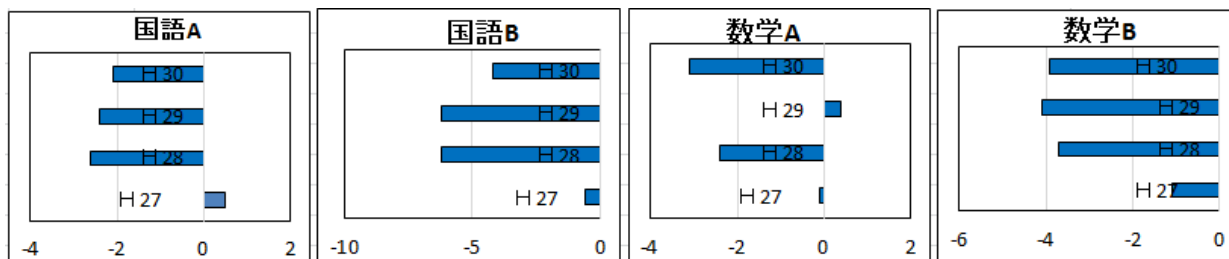
○経年変化（浅口市の平均正答率と全国平均正答率との差）

《小学校》

資料 B



《中学校》



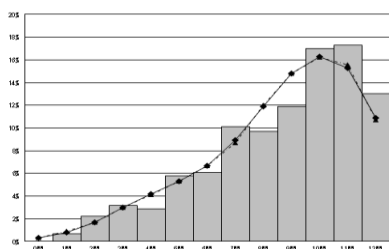
- 小学校では、国語Aが改善傾向に。しかし、国語B、算数ABは改善傾向から下降傾向に。中学校数学A、基礎的な問題での得点率が下がっているが、国語ABと数学B上昇傾向に傾向である。小学校国語B以外は、小も中もB問題で全国平均を下回っている。

⇒ 授業を中心に、基礎・基本の徹底と活用力の向上を目指した取組の充実が必要である。

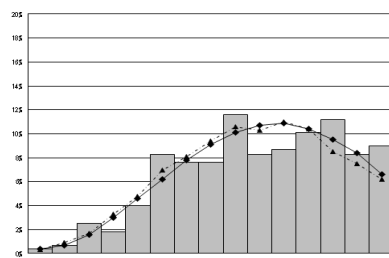
○平均正答率分布（折れ線グラフは全国平均、柱状グラフは浅口市）

《小学校》

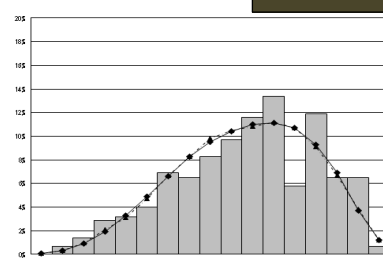
資料 C



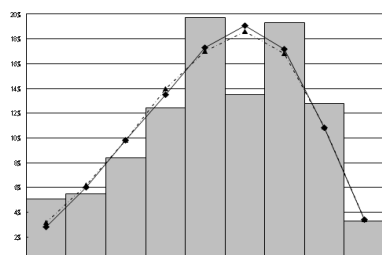
国語 A



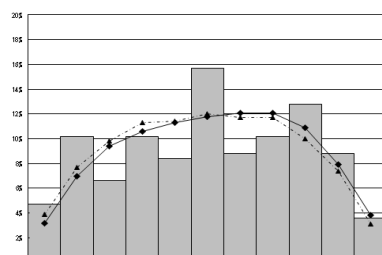
算数 A



理科



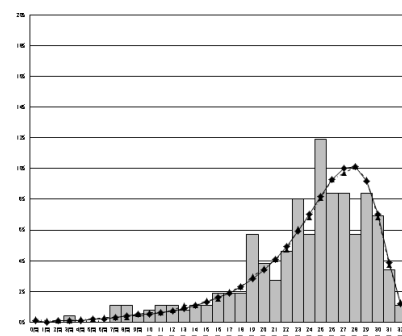
国語 B



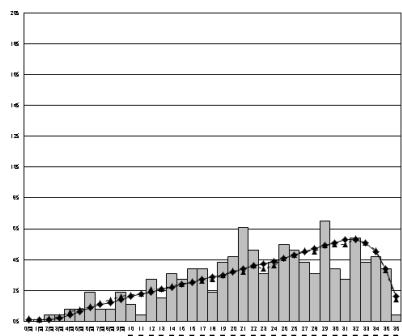
算数 B

● 下位と上位の割合が大きい。中位（よりやや上）の児童の割合が小さい。二極化につながる危険あり。  
⇒ 下位の児童からのボトムアップが必要。

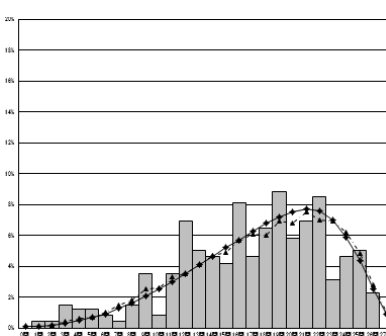
《中学校》



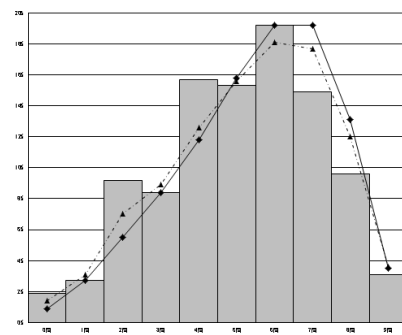
国語 A



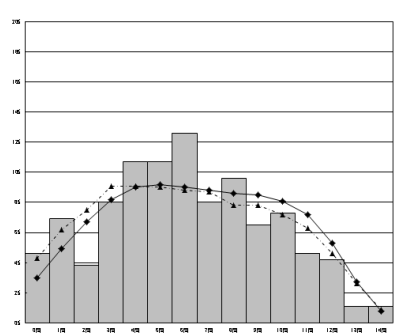
国語 B



理科



数学 A



数学 B

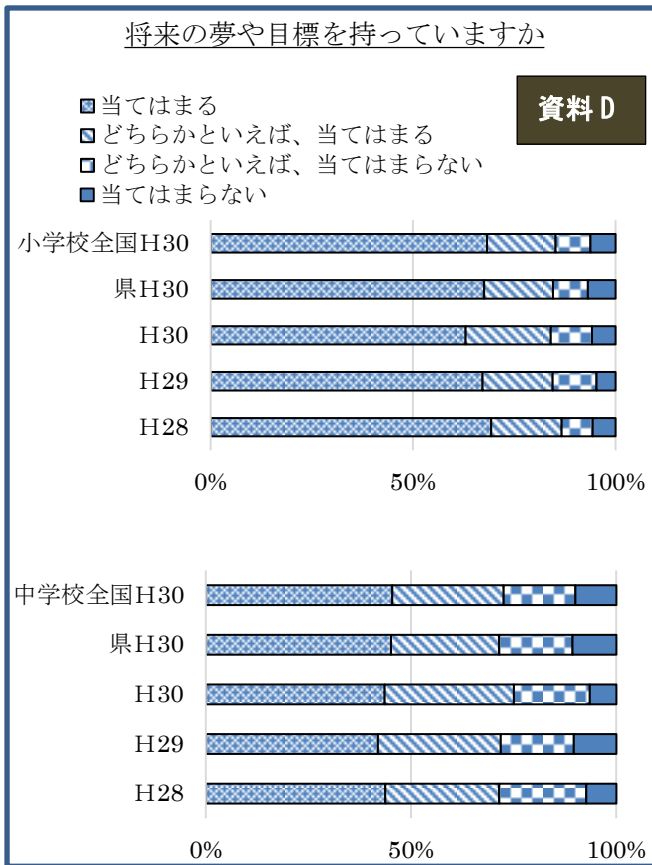
● 全国平均よりも山のピークがやや左より。  
⇒ 下位から中位にかけての生徒からのボトムアップが必要。

○その他の資料より

- 小学校においては、国語では「書く能力」に算数では「図形」に成果が出ている。国・算については特段の課題分野は見られないが、理科では「自然事象についての知識・理解」の分野に弱さが見られる。
- 中学校においては、国語 A・B で「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」の全分野において全国平均を下回り、数学 A・B も同様で、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の全分野において全国平均を下回る。理科も「物理的」「科学的」「生物的」「地学的」領域の全てで全国平均を下回っている。

【学習状況調査の結果概要】

①将来の夢や志について



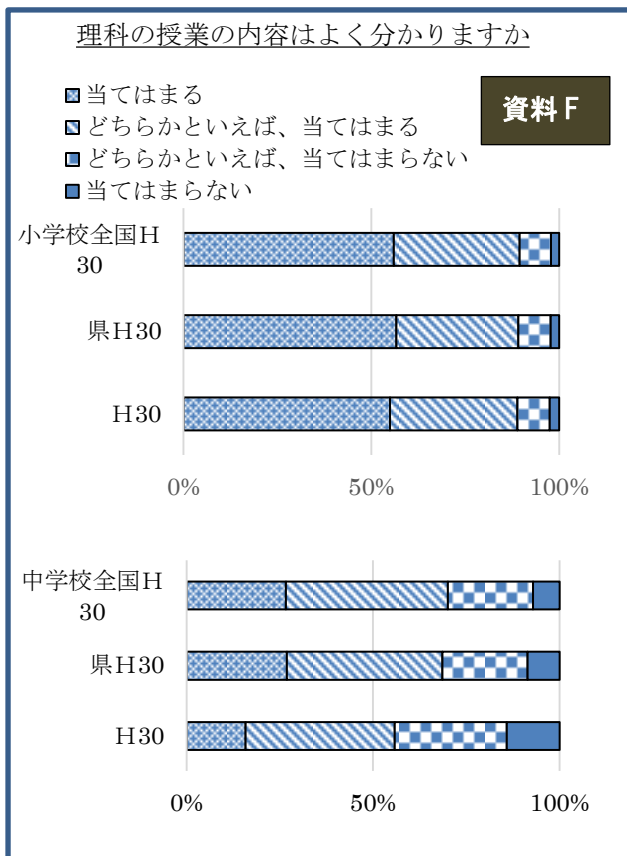
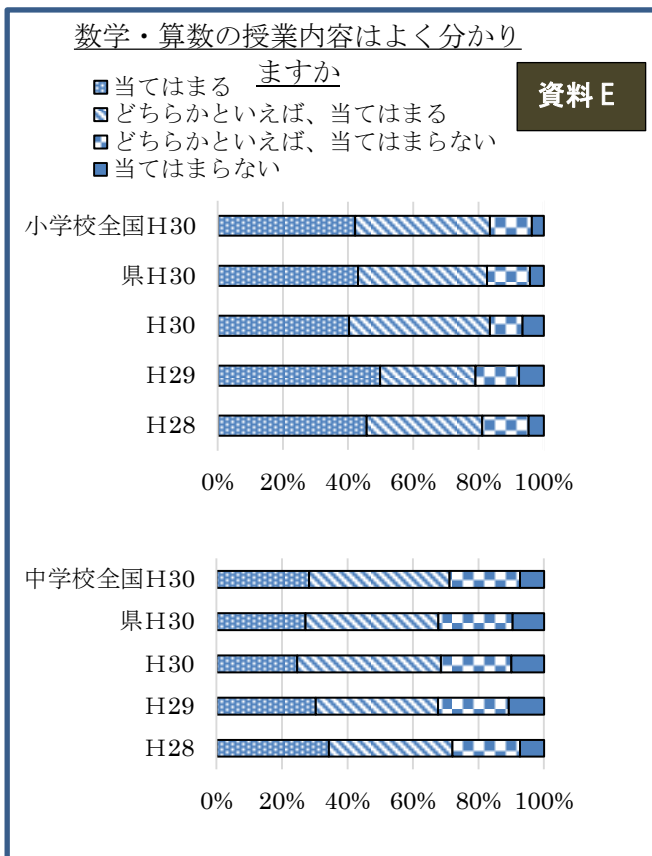
①将来の夢や志について

- 肯定的な回答をした児童生徒の割合はほぼ全国平均とほぼ同程度である。小学校はこの3年間下降傾向にあり、中学校はやや上昇傾向にある。

②授業について

- 「数学・算数の授業がよく分かりますか」について、小学校では肯定的な回答が上昇傾向であるが、中学校ではあまり変わらない。
- 「理科の授業の内容はよく分かりますか」については、小学校は肯定的な回答をした児童の割合が全国平均と同程度である。中学校の値が低いことは課題である。
- 話し合いについては、小中共に肯定的な回答が増加していることから、各校の取組が進んでいると考えられる。ただし、学力調査の結果から、思考力・判断力・表現力の向上への結び付きは弱いと考えられる。

②授業について

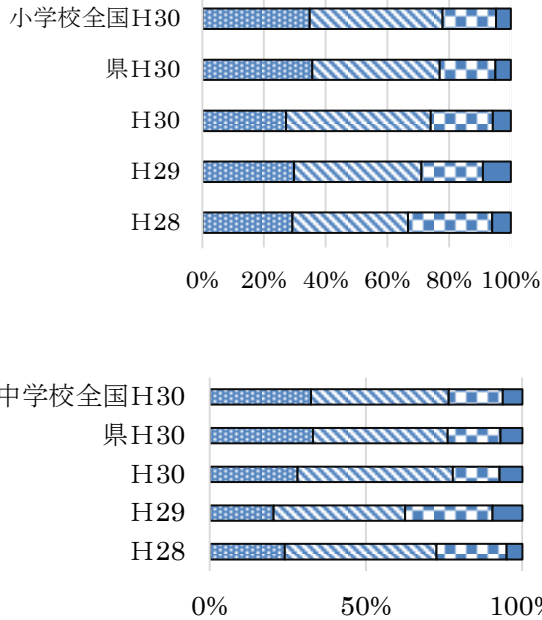


### ③補充学習

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

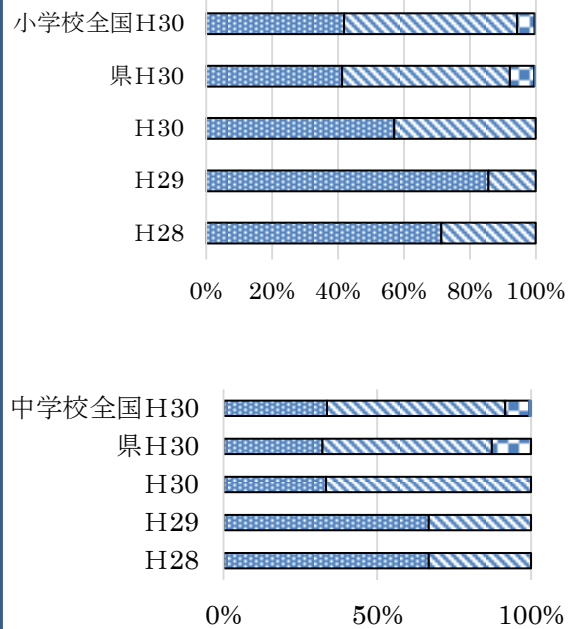
資料 G



調査対象学年の生徒に対する数学・算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導をしましたか

- よく行った
- どちらかといえば、行った
- あまり行っていない
- 全く行っていない

資料 H



#### ③補充学習について

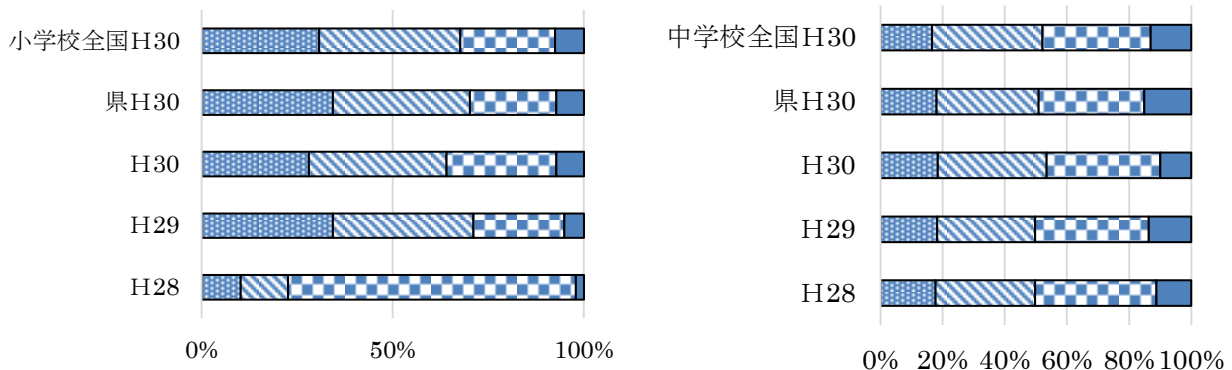
- 小中ともに、肯定的な回答の割合が 100%に達していることは各校の取組が進んでいることの現れである。
- 一人一人の習熟度を調べた上で不十分なところを見付けそこに焦点を当てて補充学習に取り組ませたり、前学年にさかのぼって忘れていた内容の習熟を図ったりといった、補充学習の質を向上させる取組が必要である。

#### ④家庭学習

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

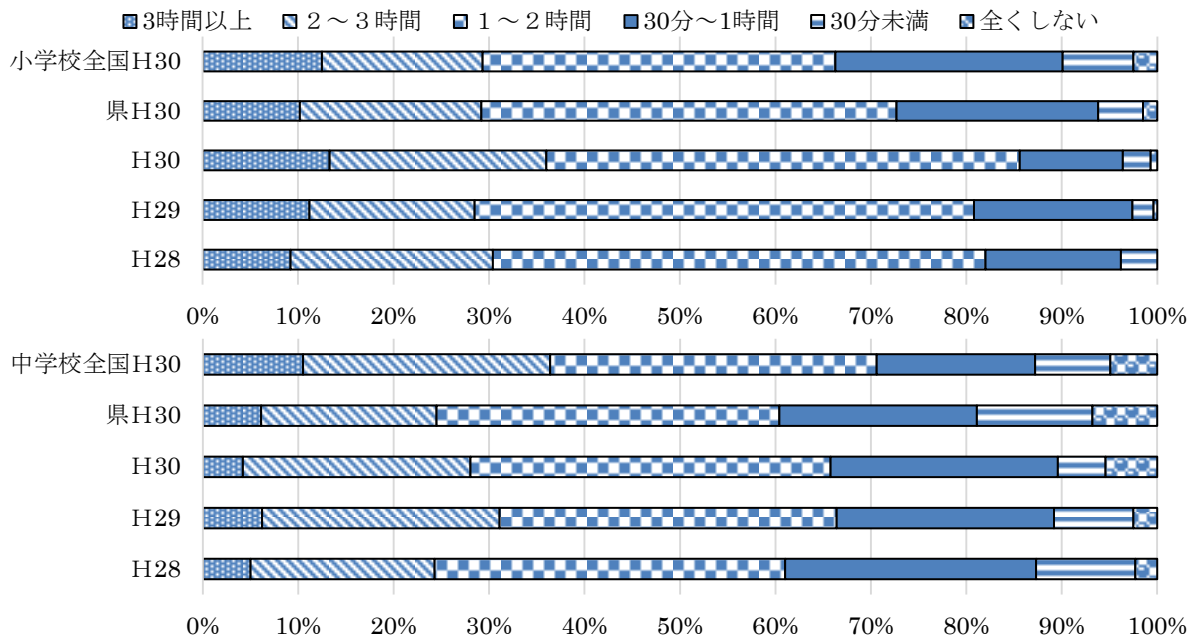
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

資料 I



学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

資料 J



#### ④家庭学習について

- 小学校では、「家で、自分で計画を立てて～」については、H28と比較すると当てはまると解答する児童が増加しているが、H29との比較では減少している。全国平均と比較してもやや低い。一方で、1時間以上家庭学習に取り組む児童は80%以上と高い割合をキープしているので、学習習慣は身に付いていると考えられる。
- 中学校では、「家で、自分で計画を立てて～」については、「どちらかといえば当てはまる」以上と答えた生徒が50%である。家庭での学習時間は、1時間以上が60%強であり、小学校6年生よりも短いのは大きな課題。家庭学習の標準時間として県から「中1は80分間、中2は100分間、中3は120分間」が示されており、それに応じた課題の量や質が求められる。

【市教育委員会の取組】※以下の内容に重点をおいて指導する。

#### ①授業改善

- ・ 授業のねらいをはっきりさせて、「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業の定着を図る。《基礎・基本の徹底》
- ・ 児童生徒のよさを認め、学びに向かう主体性を引き出す指導を充実する。《主体的な学び》
- ・ 児童生徒が自分の思いや考えを適切に表現し合う対話を手がかりに考えることを通じ、自己の考えを深め・広げる指導を充実する。《対話的な学び》
- ・ 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりする指導を充実する。《深い学び》

#### ②家庭学習

- ・ 小中連携の取組を生かし、家庭学習習慣の定着と質の向上に向けた取組を中学校区で共有し、質的量的な充実を図るとともに、学習時間や内容、取組方について生徒や家庭への周知を徹底する。

#### ③補充学習

- ・ 朝の時間帯や放課後学習等を活用して補充学習の時間を確保する。
- ・ 一人一人の実態把握と課題の検討⇒継続的な実践⇒習熟度の評価⇒取組の改善といったPDCAサイクルが適切に回る学習体制を構築し、習熟が十分でない内容についての学び直しができる補充学習にする。

